

■合成チャートとは何か

複数の銘柄を1つにしたチャートのことです。もちろん注目銘柄群でもかまいません。オリジナルファンドのチャートといったところでしょうか。

1銘柄であれば、その銘柄のチャートを見ればよいわけですからこの場合、合成チャートとはいいません。仕掛けた銘柄が2銘柄以上でそれらをまとめ1つにしたものです。

■合成チャートの考え方

例えば、5銘柄仕掛けたとします。これら1つ1つの銘柄をチャートで追うのではなく、5銘柄の値動きを1つのチャートにし（これを合成チャートと呼んでいます。）それを見て手仕舞いのポイントを探るといった使い方をします。よって通常手仕舞う時は5銘柄同時です。3銘柄は利益、2銘柄は損の時、合成チャートの判断で手仕舞いのポイントがきたとします。利益が出ている3銘柄を手仕舞って損が出ている銘柄は、後々上がると考え手仕舞わない、ということではなく全て手仕舞います。

■合成チャートをつくるには

合成チャートをつくるには、大きく分けて2つの手順があります。

1. 合成チャートのもとになる複数銘柄を「ユーザー銘柄管理」へ登録。
2. 「ユーザー銘柄合成」を使い複数銘柄を合成する。

ここまで出来てはじめて「分析チャート」などで表示させることが可能となります。

■合成の方法

複数銘柄の合成方法は3つあります。

J P法メインメニュー左列から「ユーザー銘柄合成」をクリックしてください。以下の画面表示となります。

ユーザー銘柄合成

実行 中止 一括作成 ユーザー銘柄管理

合成するユーザー銘柄シート番号(1~9999)

合成先銘柄コード

合成方法

4本値を平均する 4本値を合計する

1株当たりの単価

これが3つの合成方法です。

● 4 本値を平均する

仕掛けた株数に関係なく仕掛けた銘柄数で割ります。
例えば、5銘柄仕掛けた場合、5銘柄の株価を÷5する方法です。

● 4 本値を合計する

仕掛けた実際の値段（株価×株数）を銘柄分加算する方法
仕掛け値の合計、つまりは時価総額になります。

● 1株当たりの単価

仕掛けた銘柄数、株数から1銘柄当たりの株価を算出する方法です。

■ 合成チャート作成の手順
ユーザー銘柄管理での登録

まず例として下記をご覧ください。5銘柄登録してあります。

No.	コード	銘柄名	指定日終値	倍率(単位)	コメント
1	3103	ユニチカ			
2	4689	ヤフー			
3	5333	日本ガイシ			
4	8795	T&Dホールディ			
5	9983	ファーストリテイ			

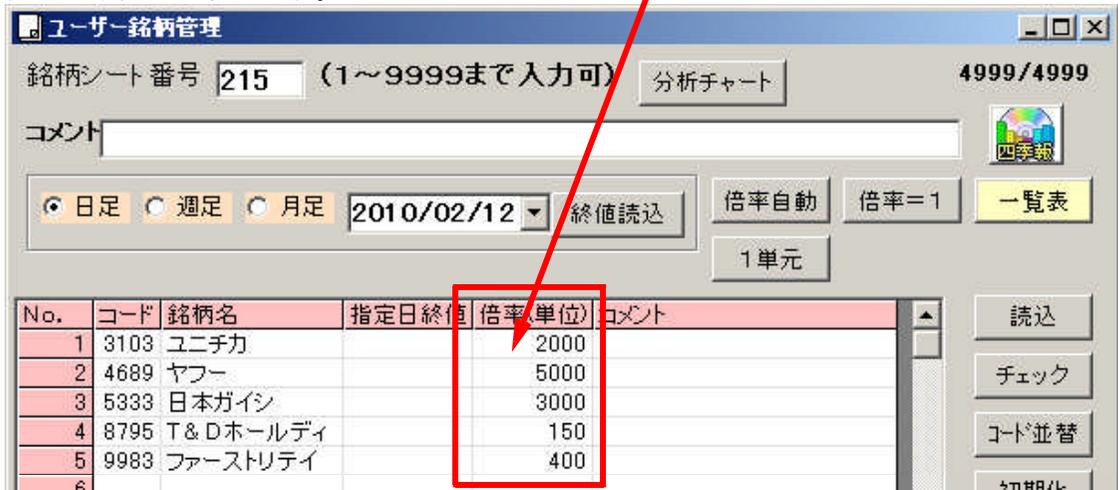
倍率（単位）の項目が仕掛けた株数となります。
1000株仕掛けたのであれば、1000、5000株であれば、5000と直接入力します。

その銘柄の最小売買単位で仕掛けるのであれば「1単元」をクリックします。
このようになります。

No.	コード	銘柄名	指定日終値	倍率(単位)	コメント
1	3103	ユニチカ		1000	
2	4689	ヤフー		1000	
3	5333	日本ガイシ		1000	
4	8795	T&Dホールディ		50	
5	9983	ファーストリテイ		100	

注意点 1株単位の銘柄については、元々の株価データが÷1000しているため、倍率の項目では1000となります。※上図の4689ヤフーの項目を参照 倍率が1000となっています。

自分で倍率、すなわち株数を決める場合は、直接手入力します。
 例えば下記のようにです。



3103ユニチカ、2000株

4689ヤフー、1000株

※株価を÷1000していますから、JPソフトではこうなります。実際は1株です。

5333日本ガイシ、3000株

8795T&D、150株

9983ファーストリテイリング、400株

という意味です。

全ての銘柄を同じ金額で仕掛ける場合は「倍率自動」を使います。

まず「1単元」をクリックし最小単位にします。

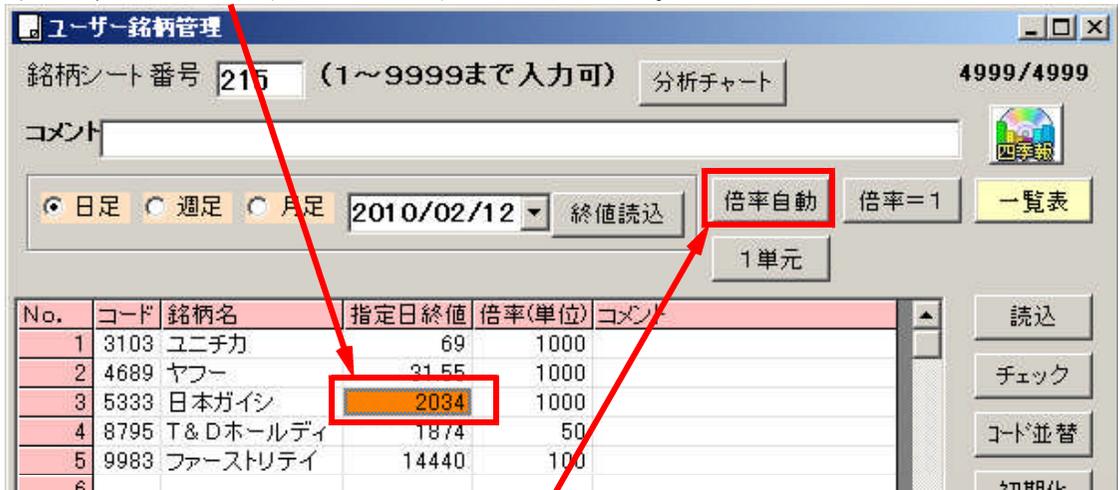
仕掛けた日付を選択し、「終値読込」をクリックします。今回は、2/12

このようになります。



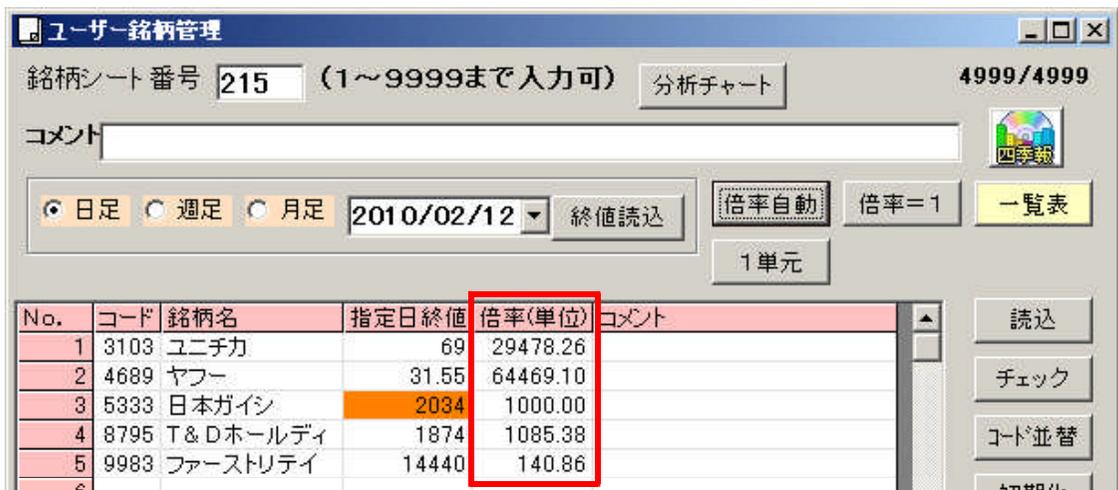
※1株単位である4689ヤフーは株価が÷1000されているため実際の株価は31550円です。

どれか基準となる1つの銘柄を決めクリックし選択します。
 今回は、5333日本ガイシを基準にしてみました。



「倍率自動」をクリックします。

このようになります。



5333日本ガイシ2034円で1000株の仕掛けが基準ですから、
 仕掛け値は $2034 \times 1000 = 2,034,000$ です。

この価格と同じ仕掛け金額にするには上記のように

3103ユニチカなら、29478.26株

4689ヤフーなら、64469.10株

※実際は株価を÷1000していますから、1000倍の64.4691株

8795T&Dなら、1085.38株

9983ファーストリテイリングなら、140.86株

という具合です。

もちろん最小の売買単位がありますから、実際は、上記の数字に近い株数となるはず
 です。

少しややこしくなりましたが、よく使うとしたら「1単位」か直接株数を入力する
 ところだと思います。

今回は、「1 単元」で合成してみます。「1 単元」をクリックし、「書込」で保存させます。使うシート番号は 2 1 5 番です。

No.	コード	銘柄名	指定日終値	倍率(単位)	コメント
1	3103	ユニチカ	69	1000	
2	4689	ヤフー	31.55	1000	
3	5333	日本ガイシ	2034	1000	
4	8795	T&Dホールディ	1874	50	
5	9983	ファーストリテイ	14440	100	

続けて「合成チャート作成」をクリックします。ユーザー銘柄合成の画面となります。

■複数銘柄を合成する

銘柄を合成するには「ユーザー銘柄合成」を使います。

下記のように入力し、「実行」をクリックします。

この意味は、「ユーザー銘柄管理」の215番シートに登録されている銘柄をコード番号1151番へ合成（4本値の合計）して書き出せ、ということになります。

注意点

合成先銘柄コードには、既に上場している個別銘柄のコード番号を入力してはいけません。入力して「実行」してしまった場合、その銘柄のデータがなくなります。

合成が終了すると下記のようになります。今回の合成は、「4本値を合計する」を採用してみました。

ユーザー銘柄合成

実行 中止 一括作成 ユーザー銘柄管理

合成するユーザー銘柄シート番号(1~9999) 215

合成先銘柄コード 1151

合成方法

4本値を平均する 4本値を合計する

1株当たりの単価

合成先銘柄コード:1151

月足合成

処理済み銘柄数: 5/ 5

終了しました。

合成先銘柄コードは、あらかじめ「銘柄管理」で登録しておく必要があります。

データ入れ替えをされた方は、1150番台にあらかじめいくつか合成チャート用の枠が用意されています。例えば、1150~1157など。

ここまでの手順で、全て終了です。5銘柄の合成が終わり、あとはチャート表示のみとなりました。

合成した5銘柄は、個別銘柄と同じように分析チャートや各メニューのチャートで表示させることができます。

■合成チャートの表示

J P法メインメニューから、右列上、「分析チャート」から1151を表示

このチャートが、5銘柄の時価総額チャートとなります。(4本値の合計)



チャート上の目盛りに注目すると、実際の値段だということが分かると思います。

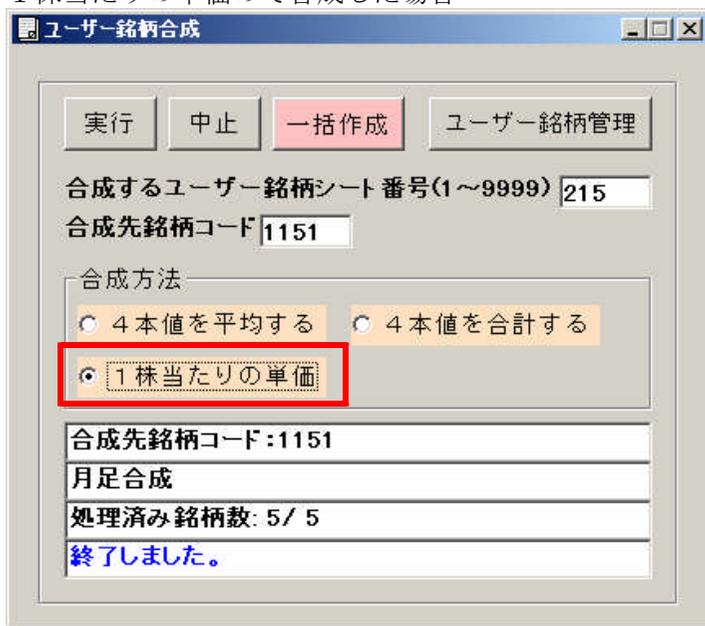
注意点

ユーザー銘柄合成で「4本値を合計する」を選択した場合、あまりにも仕掛け値が大きい(値段が高い)と、チャート表示で目盛りの部分が指数表示となり、見にくくなります。

合成元の銘柄の仕掛け値が大きい(値段が高い)場合などに起こりがちです。

その場合、次ページのように合成方法を「1株当たりの単価」として実行してください。

1株当たりの単価ので合成した場合



実行 中止 一括作成 ユーザー銘柄管理

合成するユーザー銘柄シート番号(1~9999) 215

合成先銘柄コード 1151

合成方法

4本値を平均する 4本値を合計する

1株当たりの単価

合成先銘柄コード: 1151

月足合成

処理済み銘柄数: 5 / 5

終了しました。



チャートのかたちは似ていますが、目盛りが違います。

今回紹介した合成チャート作成の手順は、ホームページ上のソフト利用事例集第17回にもアップされています。あわせてご覧下さい。

ソフト利用事例集

<http://www.neuralnet.co.jp/howjp/index.html>